

人間一生  
獨案內

善惡道中記

全

^ 13

3134

1





へ13  
3134  
1-6

一筆庵戲作

英泉画

昭和九年九月十二日  
購求

# 善惡道中記

一生獨案内

頂恩堂

新加

へ13  
3134  
1

## 善惡道中記序

振古の聖賢ハ世を友善ハ後生途を憐レハ善  
 惡邪正の道を説をいづる此世話と云更勿レ獨  
 慎知を守者ハ德行を樂ミ貧富の際ハ惑ラズ  
 吉凶を天ハ儘それハ分を量る不足ざる事ナシ  
 是を知命の達者と云衆人多クハ是を悟ル以惡  
 人奸富の榮ハ誇リ善人多ク貧困窮ニ徳を  
 失ふ者を見てハ幸と不幸の地を換ル天命



理を通曉さば、道不迷るを案内不立と教諭不便と云ふ。書籍ハ路の標あり、墨翟と云人の岐道を見く、悲しと泣くも迷ん事を思ふ。十善街道三悪道、右欽左欽、彼方此方、問ざる時ハ必迷ふ、惑ふハ道不闇さ故あり。克本善の道を尋て、巡り遠しといふ、さうして名聞利慾の捷徑不入と、則行路難、山ふもあは、川ふもあは、人生の半腹不在と云、抑道の善悪

知つて、只其理を以て、抑と云ふ、公道人情両なるを、全き夏ハ為事難し、人情全け、公道を欽、公道全ければ、人情を欽、各道必達する所と、情不通ずる所不儘し、其性的と、天命のとも、智者仁人の適を、自其道必適く、倘性変を知者、盜跖が百年の壽ありとも、短しと、顔子が三十二年の天も長しと、玄ん飲鶴の千歳ハ猶短く、蟪蛄の一時の期長しと、言ん、只足夏を知り、時ハ貧し、乃れとも富るが如く、是



事を知らざる時を富といふも貧き如し。此兩  
岐を悟らざらん。浮世の旅下性悩む歩行あらぬ  
徑を讀文選不行路の詩あり。人生天地の間百年  
孰能要せん。頰ごと石を敲火の如し。長い浮世も  
短いの命。往も光陰還るも月日仇も過るを惜氣  
もねく。暮を六遺感ふあはばや。人間の一生八腐  
たる長羊の如く。袴底の澤庵大根のおと。後  
前もてとを正味ハ僅五十年の内外を出る

喜怒哀樂なり。宰しく費は月日を筆か。笑  
て暮を日を稀なり。是を思へ一時の懈怠を  
そ恐るる。嬰童克愛も用心しく聖賢道  
不往方の本海道なり。赴き勢く教をばはる  
者も必も良民とあはらん。寧驛路の道伴  
を撰んじり。獨案内有り。勸善懲惡の一端  
ともなはん。欲と善惡道中記と。

題を事志るを



天保十四年歲在癸卯  
秋閏月福成同十五年  
新春發兌

江戸板川之市隱

一筆茶筌主人題



原本善惡道中記の飛雄事の著述は大小の世に傳へしと云ふ寶曆六年丙子の春の板屋松島下町合見寺より傳へて癸卯に其後天明寛政の比に至り板屋山人板屋舟の初名あり大通茶筌内一筆茶筌事の作意不敏は合見寺の合見寺ありて一載作ありしと云ふ東京傳戲作ありて悟道茶筌内と云ふも是れはの章子不基事一の之種好先世の所傳と云ふは是の事也流行當時の人情ありし事也

人間一生 善惡道中記

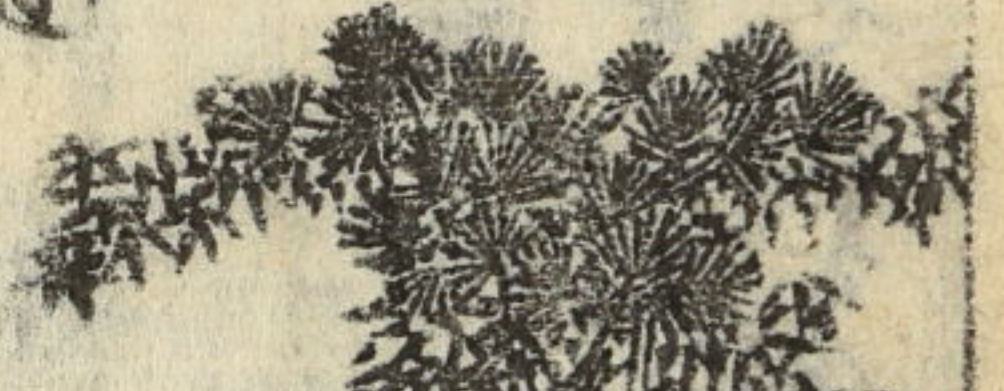
發端

一筆茶筌戲作

夏小拙と秀筆を採て旅の耻と便小書拾ふて人間一生浮世の旅日記四季の國境小十二月の宿次あり初春の門松一里塚の聲一期の采枯得失漫遊の老所旧跡の如く人生僅五十里の驛路と下場の撰六室れり四十周五重の却命老の坂道小登り下りの難所係りて古來稀なる七十の峠を越へて定宿の泊りも遠く老後の旅行駒の年馬極死を極行はるるも早老脚古柳の途世活長覺く後生太事と成るるも命惜く宿限の便りも正便りも難しむるは八十の賀漫を行ぬ老體の浮世拾れ非と見ゆて善念ありありと見ゆる事をもあつたる事も指を感く善念長き月日の早くも是れ世を傳へて止るるも眼目今目の測



とある程百川の氷絶  
 流と通りの八景夜を捨  
 夫如吹雪光臨小園守  
 るれば夕影を去れて  
 事の色馬をのりて  
 場中見物と見候上り  
 中仕法を徒を遊ば  
 ま小油断あまされ  
 向を場小芝居雷の  
 運まふ何れも雲助  
 早くさる時先福を  
 るは此の世を他  
 道つれ世情はれ  
 の大定治の小自



浮世の故人性

里塚



川苗小路用を  
 多々の患あり  
 宿眼を風雨霜雪を  
 遠の道き  
 不幸運を天小供  
 の世國旅行老只世  
 身の上の関着助  
 唯く秋路の鈴小  
 と胸の端綱八  
 後川絨小  
 偷二世因果を  
 面の理を  
 小舟御道一  
 既小停上三度









是所の定めお湯はあれども  
 常小威小入る備を以らり  
 されぬやう小練のや一非茂の  
 密更小七五部分の首代は堪忍  
 の半減を坊へ倍くは罪を  
 託る定とあり浮世を二分并ごと  
 安賣小たる者何れは春宵一刻小  
 千金の僕と高なる雅人あり文  
 字小千金の虫成む坊へ古と云  
 常小油割と増忍とを守り小安  
 小くする所を替へる家かろく人毎  
 小をまひて子孫の栄えを年くく  
 るるを情を以た義を主と冷漢と  
 ろうてを情を以て義を主と



不他あつるを信じて  
 金まのを主と擲る記るを  
 信じての荷を賣るを主と腹  
 五枚を打るを信じて半の辨他助と  
 のことを主と黒闇と  
 正を信じて七守とを主と倉丹  
 正を信じて猫の氣を主と軍小養  
 正を信じて路の付を主と鴉焼と  
 正を信じて馬の鞍を主と籠とを主  
 正を信じて小舟を主と信じては會  
 世の中の人各五常の道を守るを主  
 正を信じては聖人の教あり  
 正の道中祀の大意あり











おんまき峠  
おんまき村  
おんまき堂

おんまき堂  
おんまき村  
おんまき堂

おんまき峠

おんまき村

おんまき堂



おんまき峠  
おんまき村  
おんまき堂

おんまき堂  
おんまき村  
おんまき堂

おんまき峠

おんまき村

おんまき堂



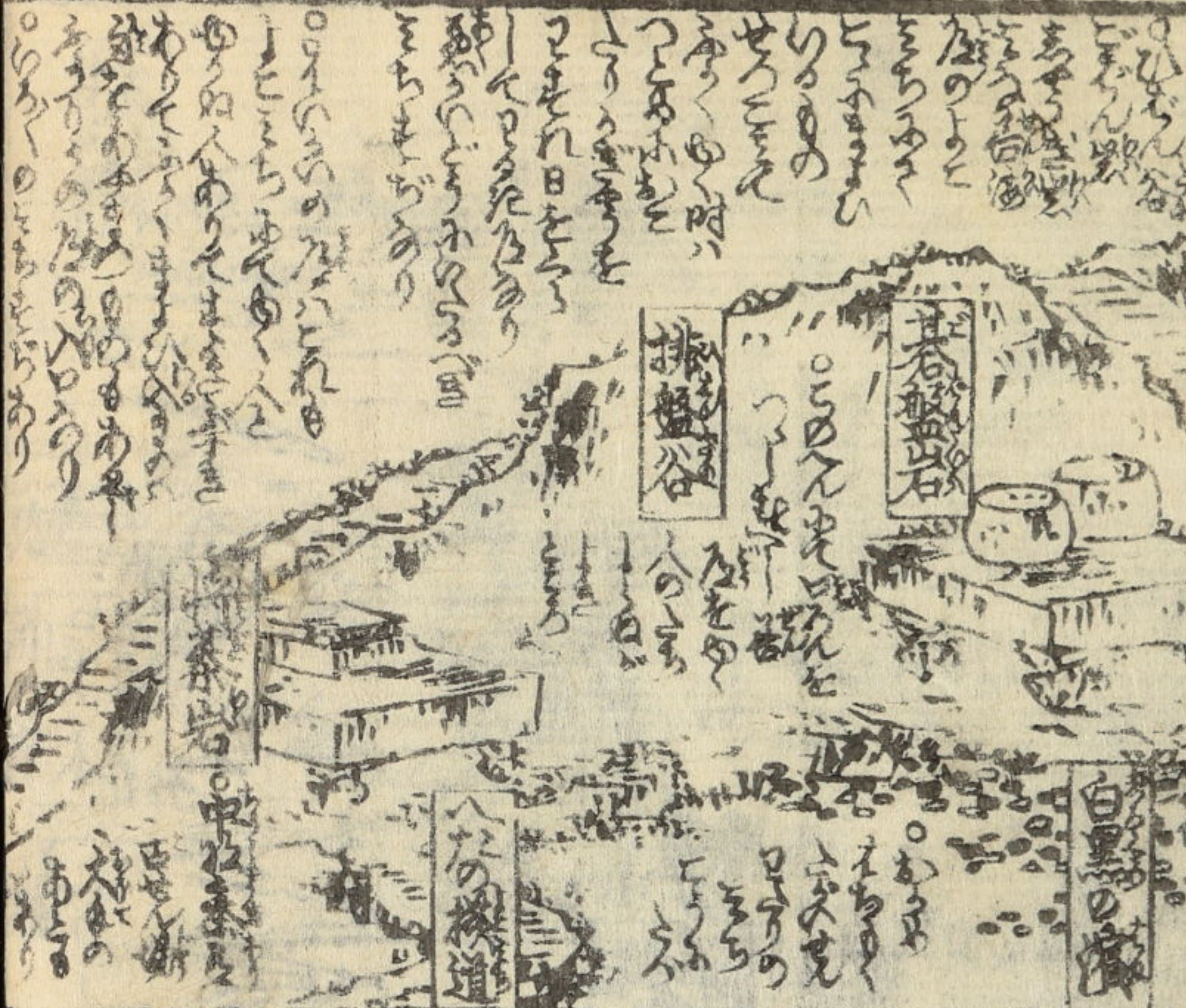




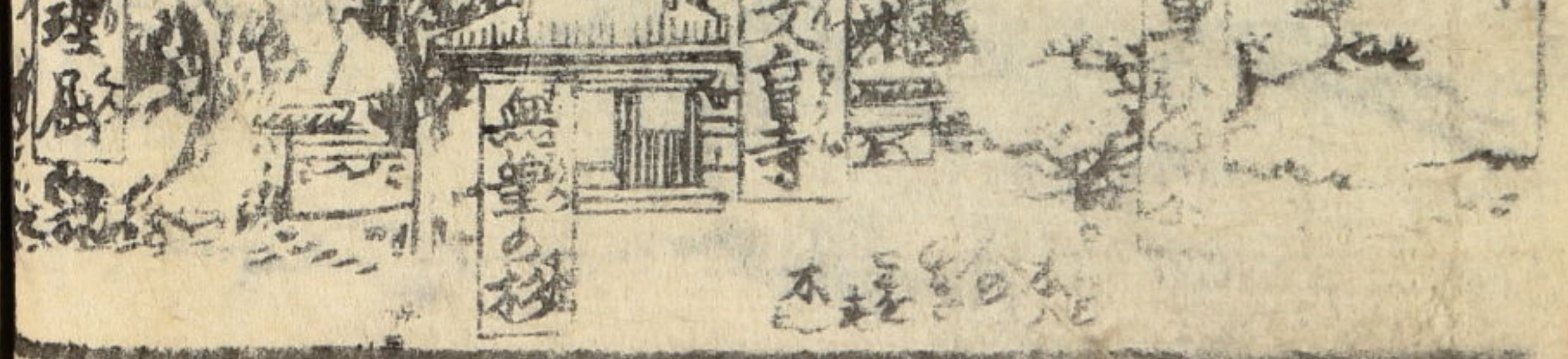




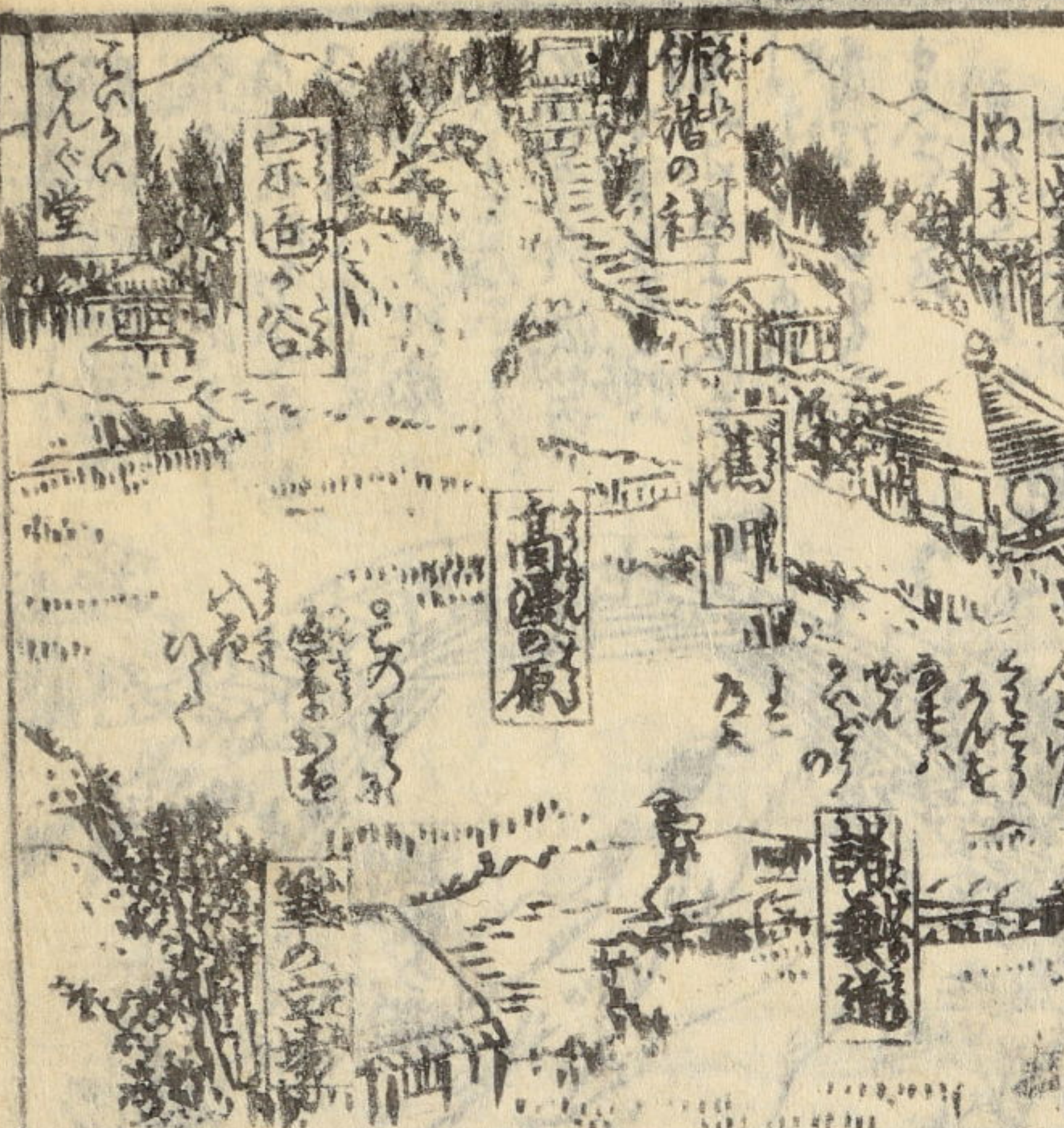
本然の道



○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく



懐子堂



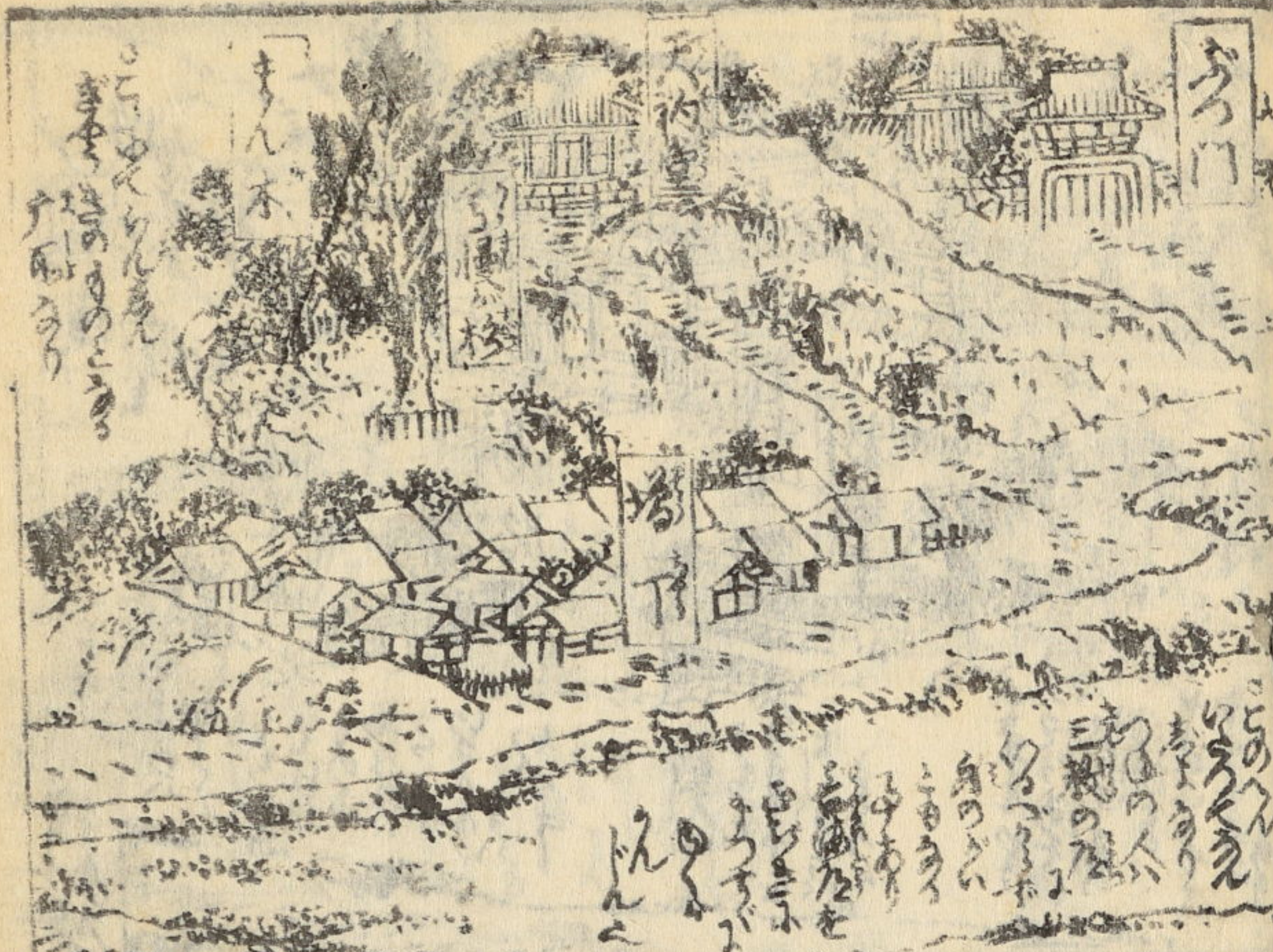
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく  
○この山はもと父母の権いなく







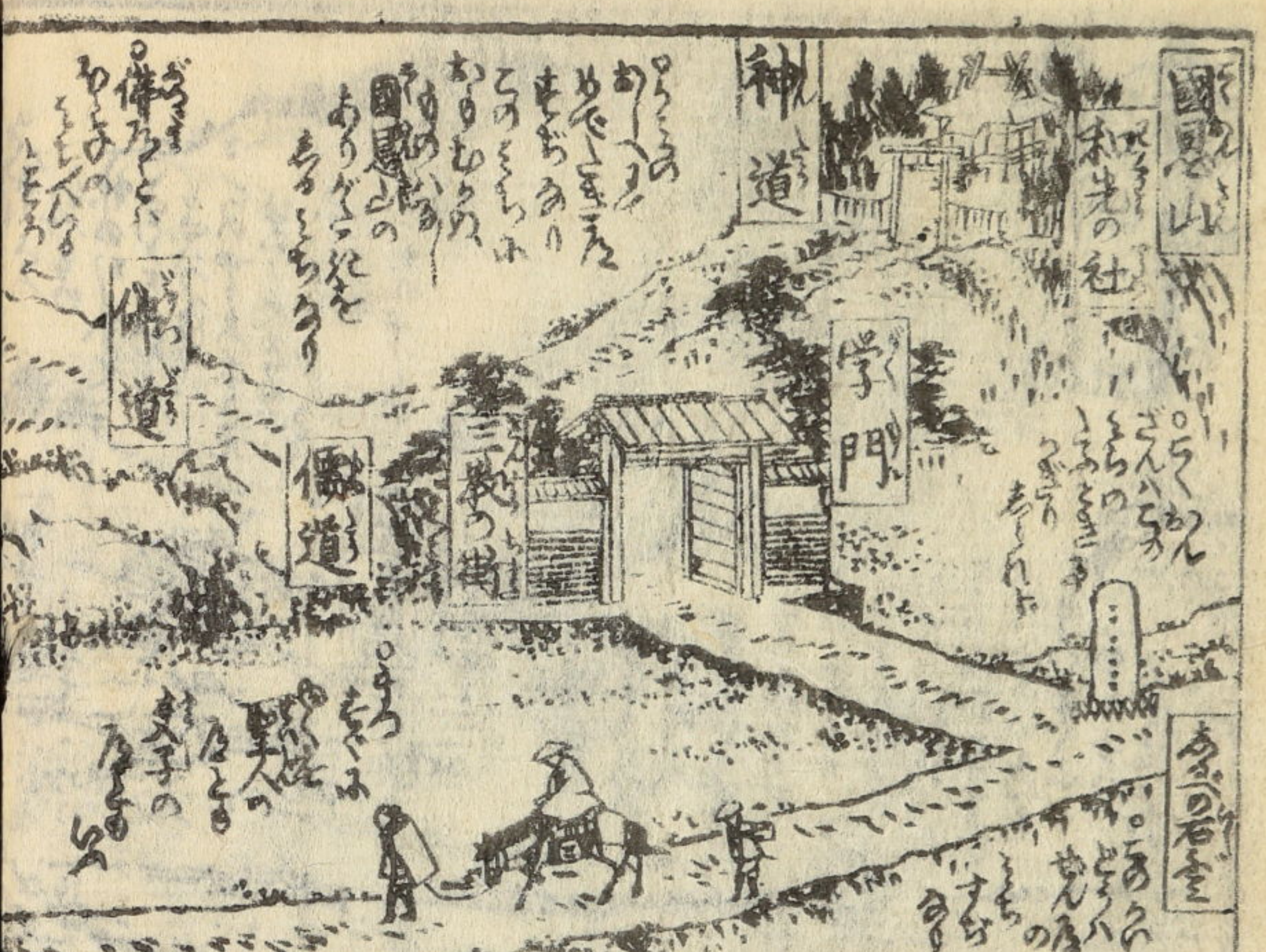




まん木  
この山に  
まき  
すけり

おのり

この山に  
まき  
すけり  
まき  
すけり  
まき  
すけり



神道

学門

儒道

おのり  
まき  
すけり  
まき  
すけり  
まき  
すけり

この山に  
まき  
すけり  
まき  
すけり

まき  
すけり  
まき  
すけり



この山に  
まき  
すけり  
まき  
すけり

梅

橋

のり

まき



この山に  
まき  
すけり  
まき  
すけり

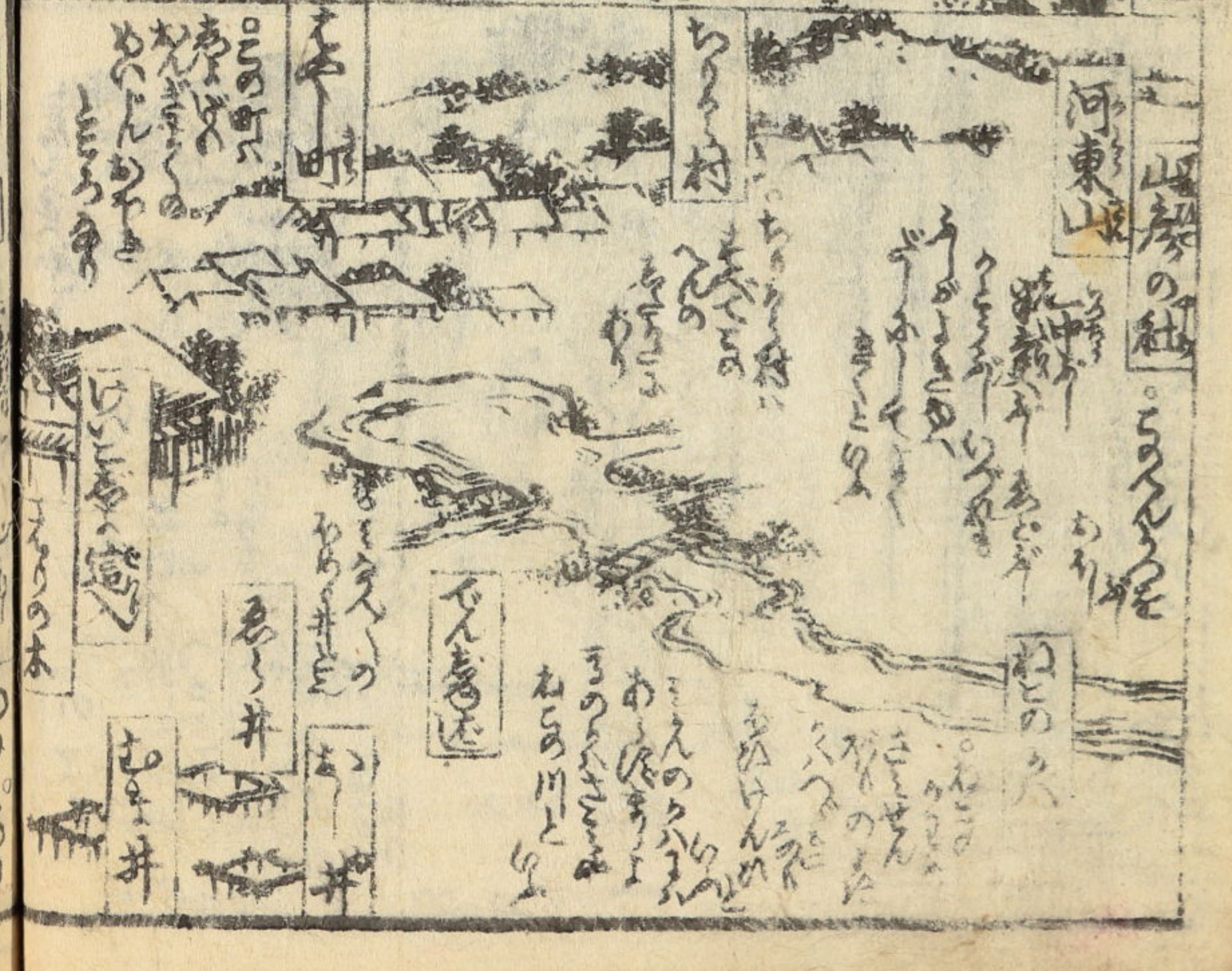
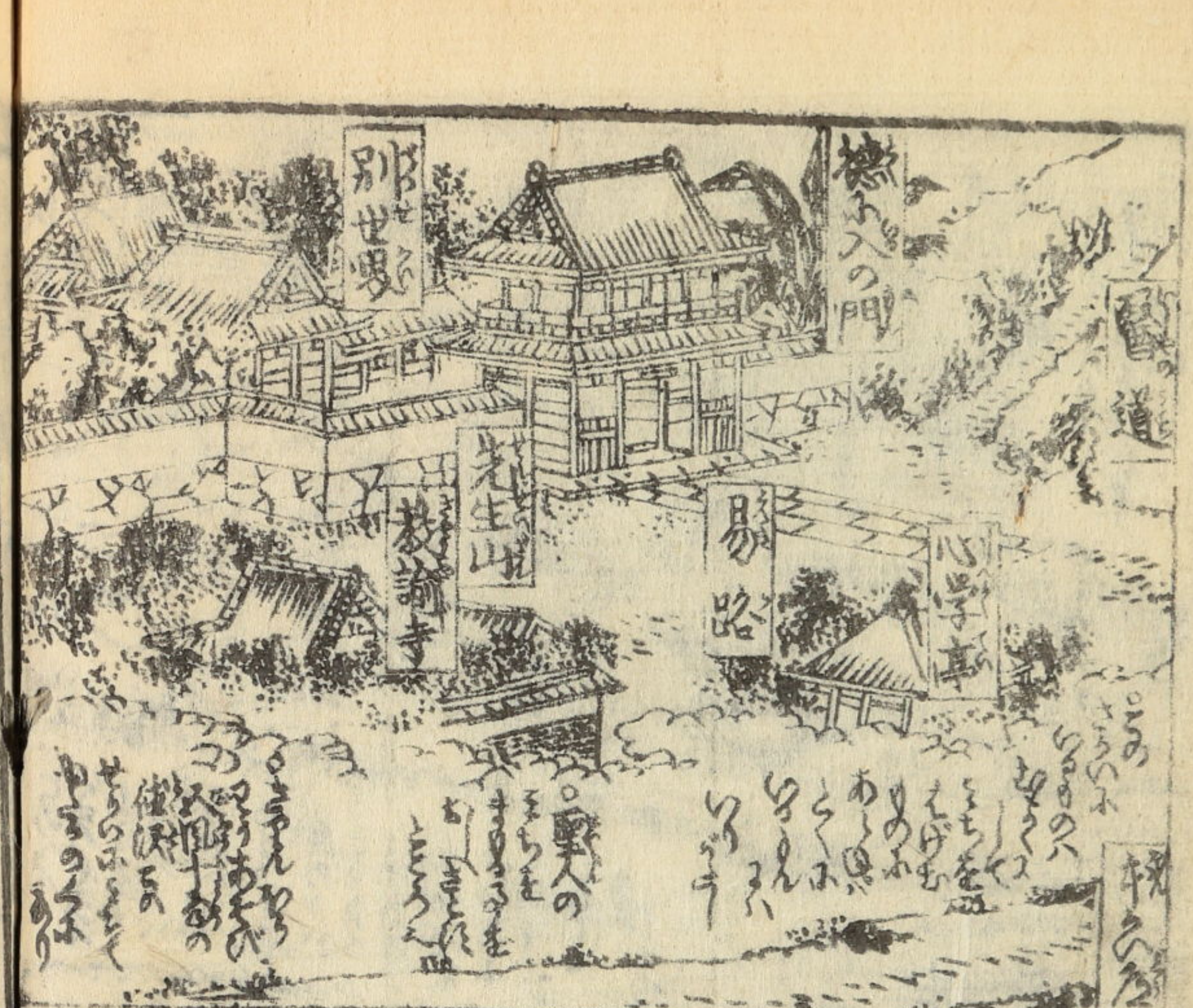
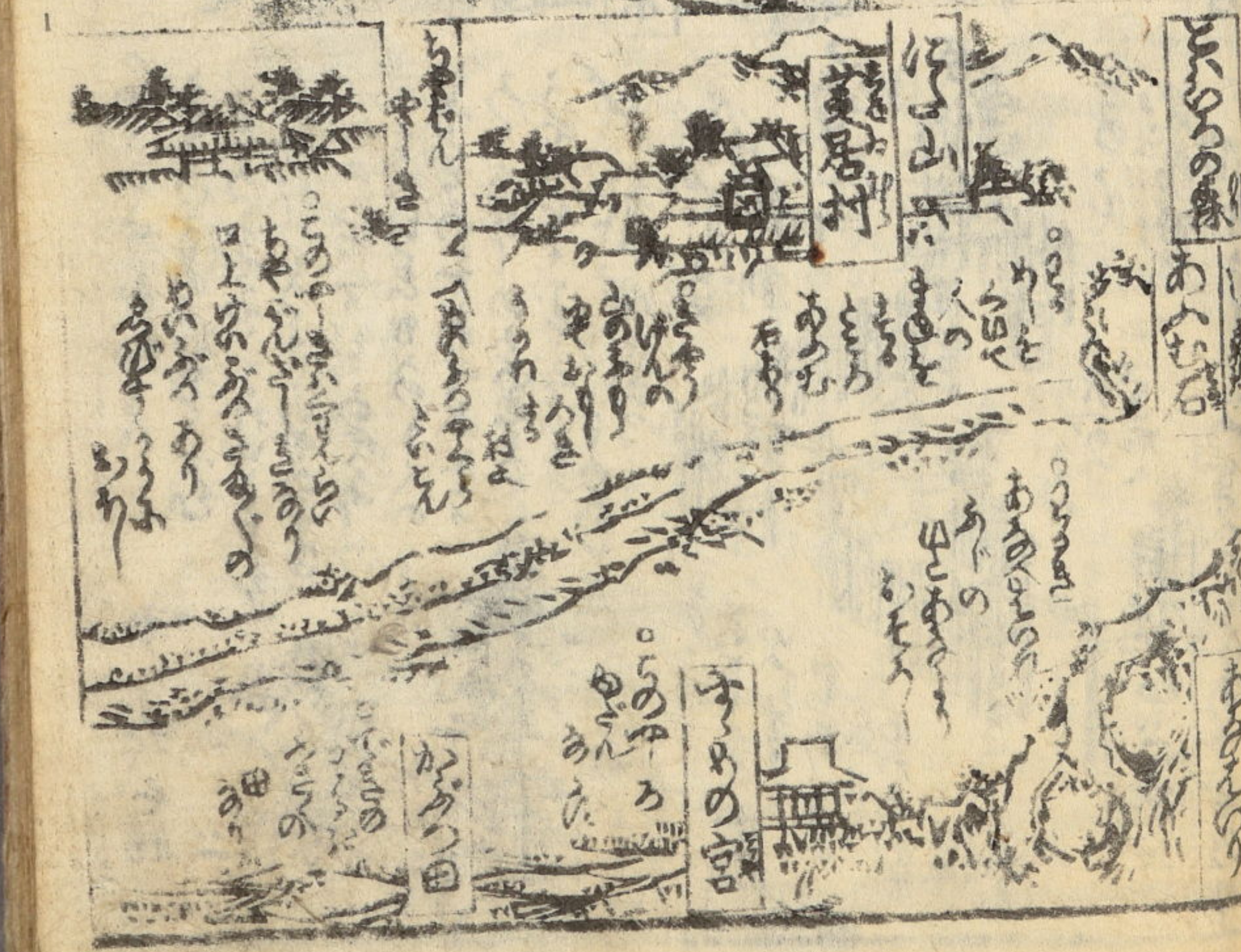
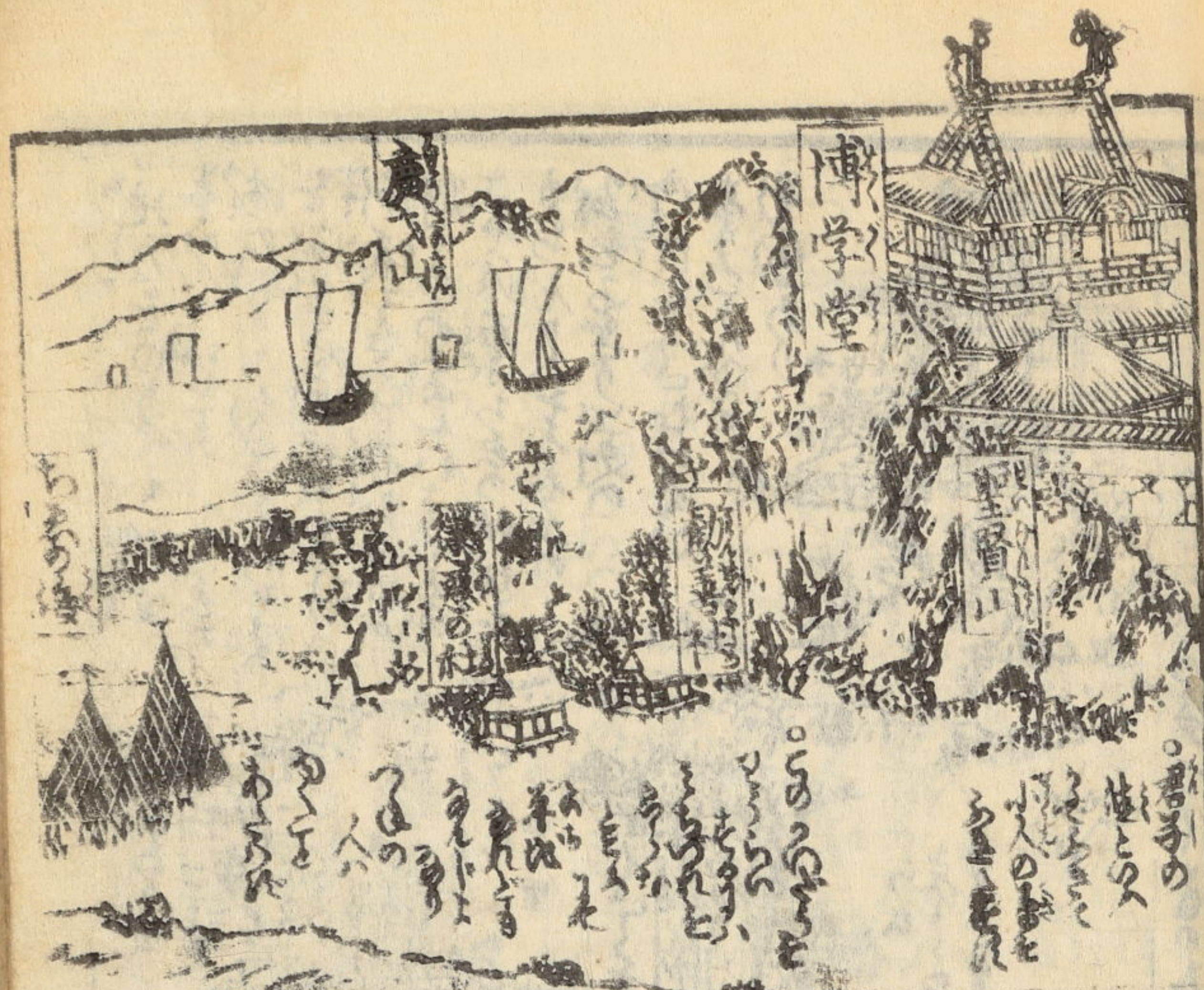
竹

のり

まき

この山に  
まき  
すけり  
まき  
すけり





















たけのこ  
あまのこ  
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川

たけのこ  
あまのこ  
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川

あまのこ  
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川

あまのこ  
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川

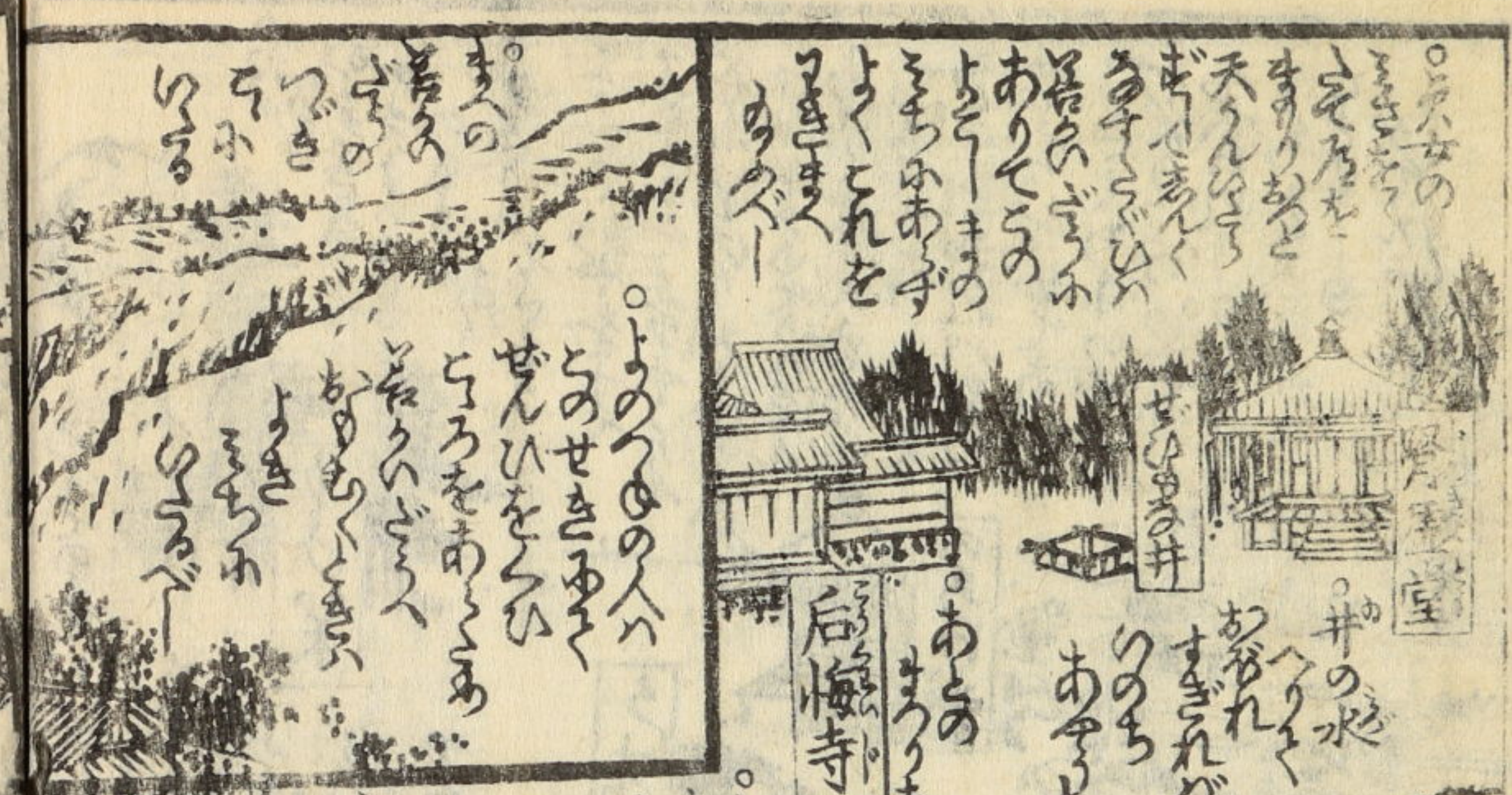
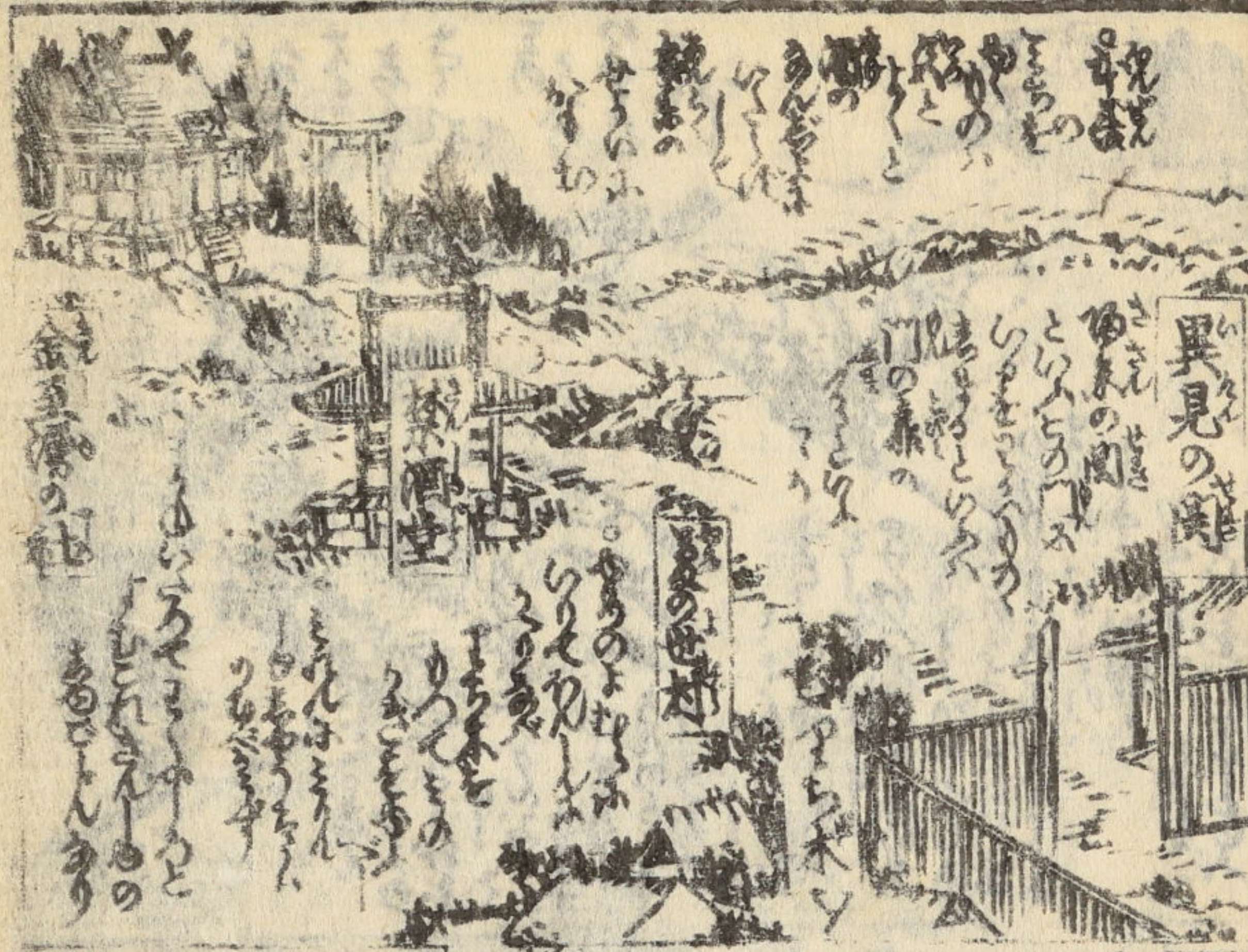
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川

たけのこ  
あまのこ  
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川

あまのこ  
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川

あまのこ  
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川  
たけのこ  
あまのこ  
うその川





神鏡  
神鏡の  
神鏡の  
神鏡の  
神鏡の

異見の  
異見の  
異見の  
異見の  
異見の

田里の  
田里の  
田里の  
田里の  
田里の

神鏡の  
神鏡の  
神鏡の  
神鏡の  
神鏡の

神鏡の  
神鏡の  
神鏡の  
神鏡の  
神鏡の

神鏡の  
神鏡の  
神鏡の  
神鏡の  
神鏡の

神鏡の  
神鏡の  
神鏡の  
神鏡の  
神鏡の

神鏡の  
神鏡の  
神鏡の  
神鏡の  
神鏡の



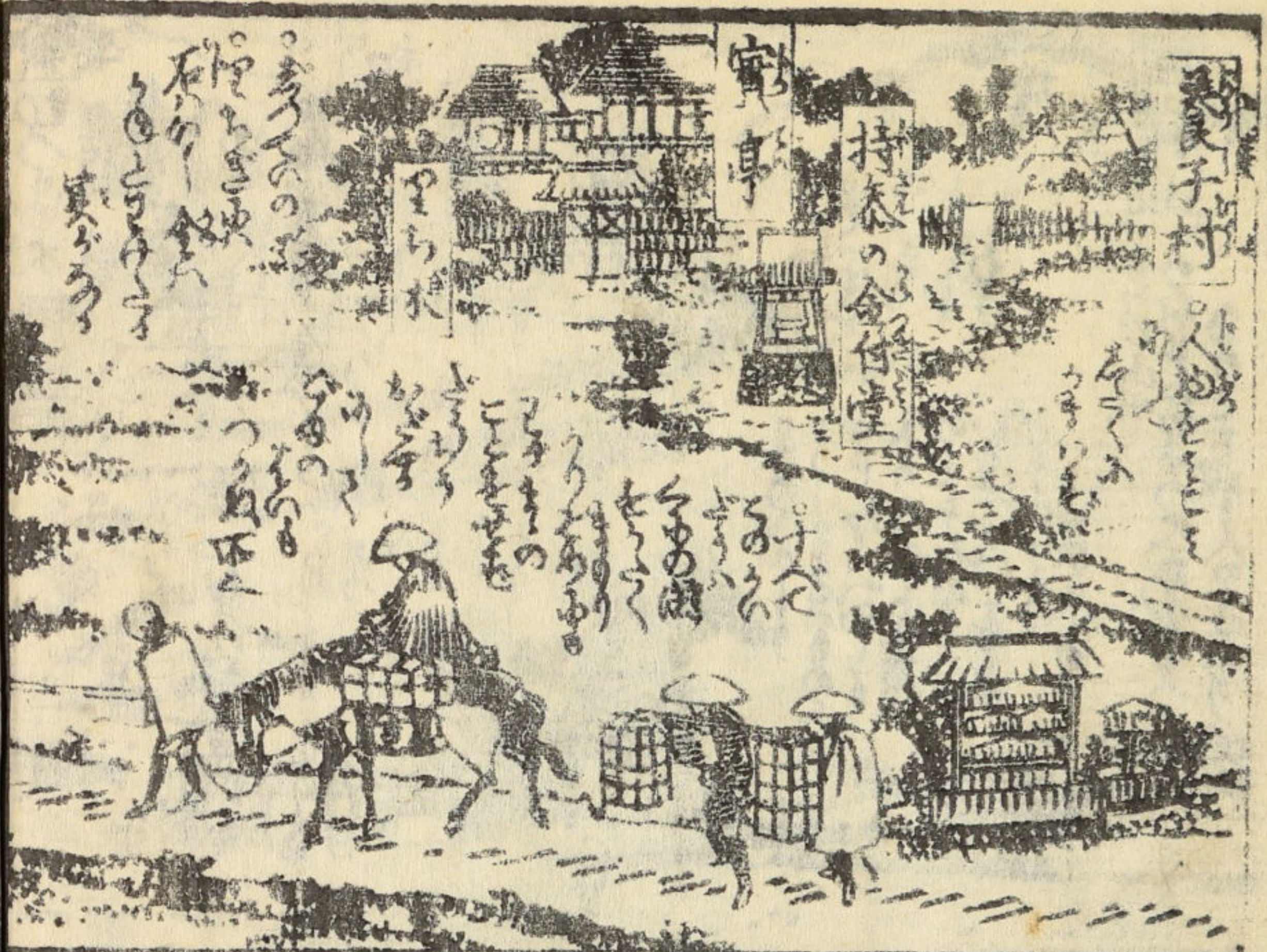








野子村



野子村の  
石の  
...

持太の  
...

...

賀来領



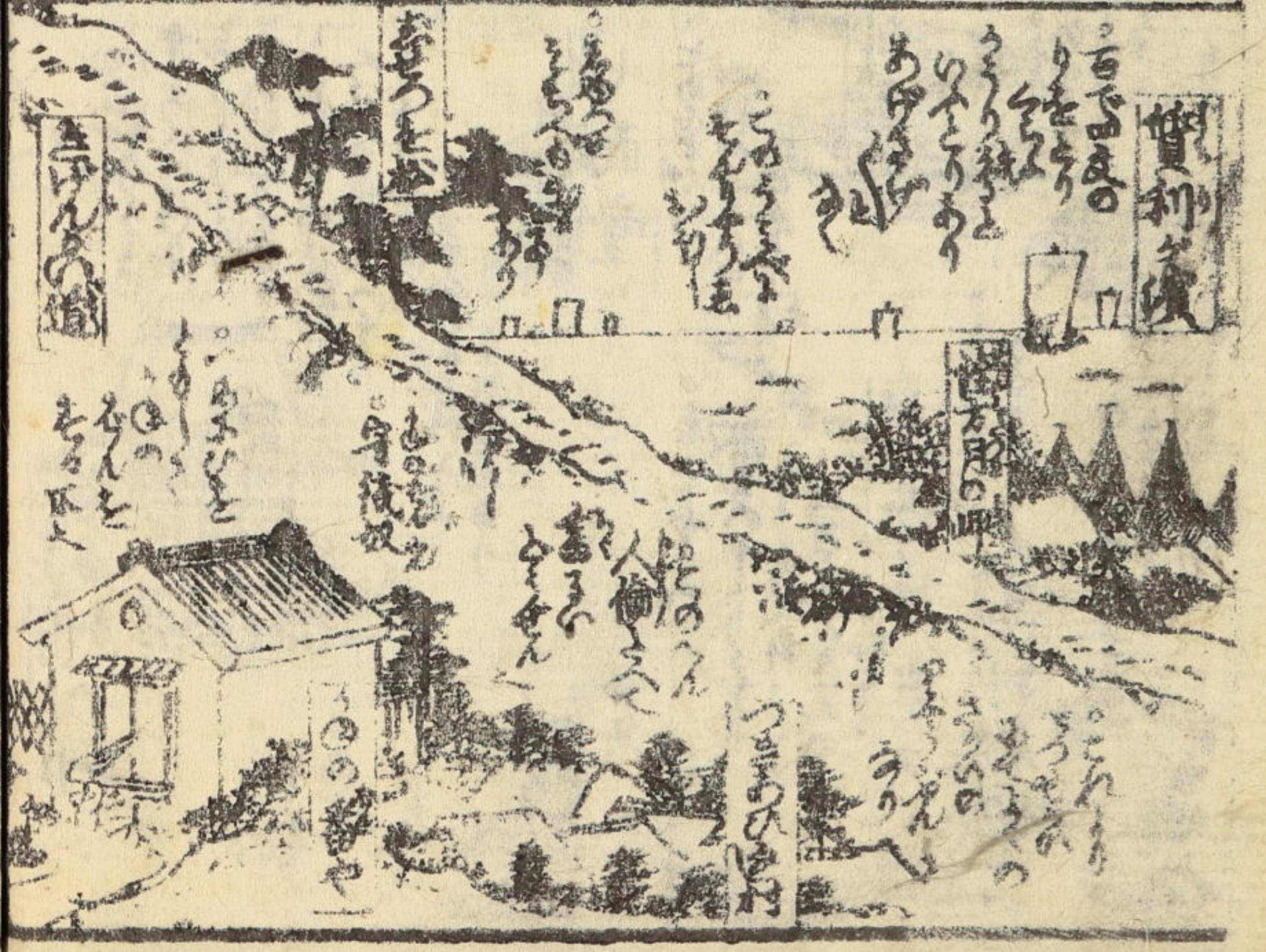
...

...

...

...

賀来領



...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

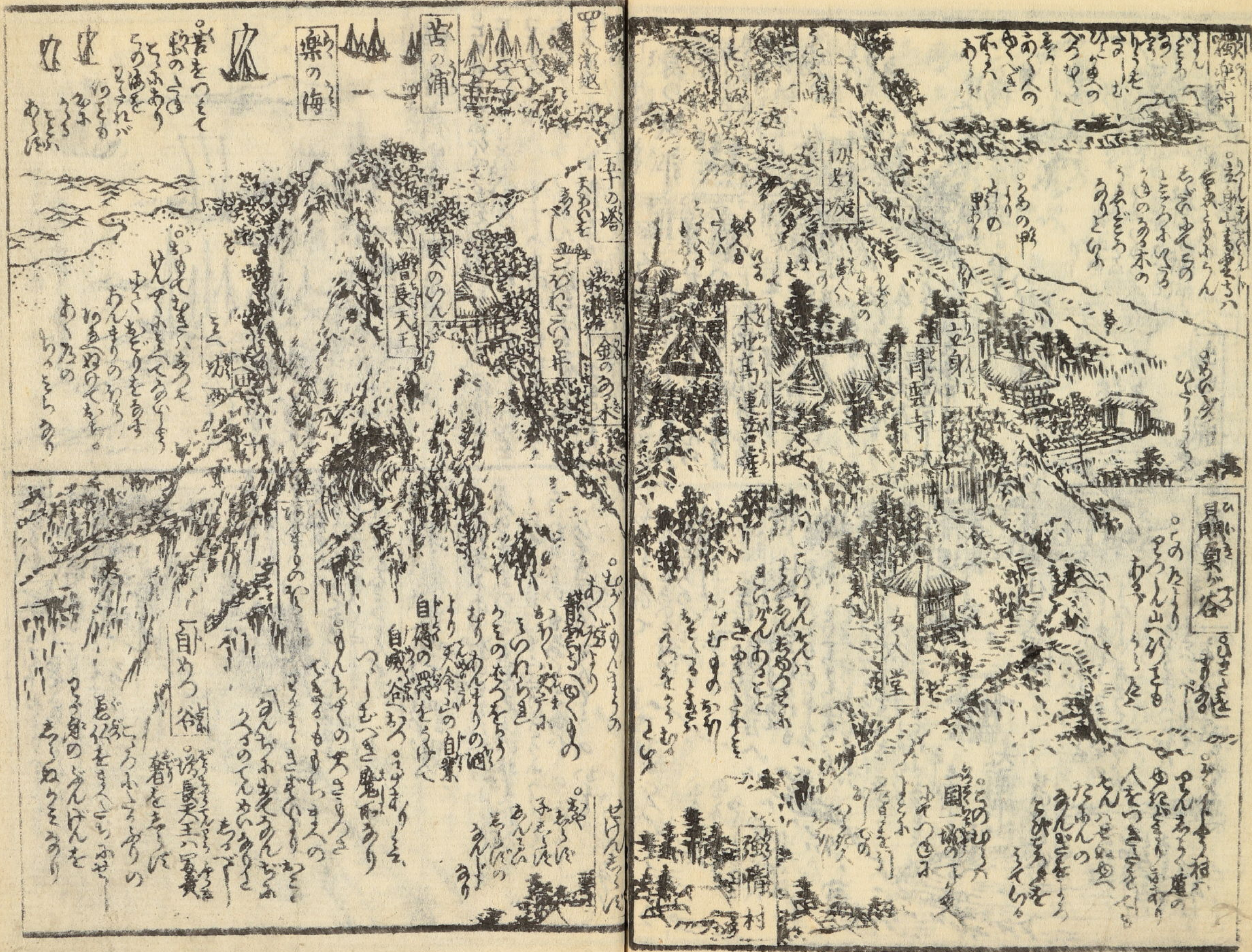












御前村

○此山は富士山  
○其の山頂は  
○雪に覆はれ  
○て白く見ゆ  
○るなり

○此の山は  
○富士山と云  
○ふなり

○此の山は  
○富士山と云  
○ふなり

○此の山は  
○富士山と云  
○ふなり

目黒谷

○此の谷は  
○目黒谷と云  
○ふなり

○此の谷は  
○目黒谷と云  
○ふなり

○此の谷は  
○目黒谷と云  
○ふなり

○此の谷は  
○目黒谷と云  
○ふなり

○此の山は  
○富士山と云  
○ふなり

○此の山は  
○富士山と云  
○ふなり

○此の山は  
○富士山と云  
○ふなり

○此の山は  
○富士山と云  
○ふなり

○此の山は  
○富士山と云  
○ふなり

平八郎地

○此の地は  
○平八郎地と云  
○ふなり

○此の地は  
○平八郎地と云  
○ふなり

○此の地は  
○平八郎地と云  
○ふなり

○此の地は  
○平八郎地と云  
○ふなり

○此の地は  
○平八郎地と云  
○ふなり

五十の塔

○此の塔は  
○五十の塔と云  
○ふなり

○此の塔は  
○五十の塔と云  
○ふなり

○此の塔は  
○五十の塔と云  
○ふなり

○此の塔は  
○五十の塔と云  
○ふなり

○此の塔は  
○五十の塔と云  
○ふなり

金の木

○此の木は  
○金の木と云  
○ふなり

○此の木は  
○金の木と云  
○ふなり

○此の木は  
○金の木と云  
○ふなり

○此の木は  
○金の木と云  
○ふなり

○此の木は  
○金の木と云  
○ふなり

龍王の池

○此の池は  
○龍王の池と云  
○ふなり

○此の池は  
○龍王の池と云  
○ふなり

○此の池は  
○龍王の池と云  
○ふなり

○此の池は  
○龍王の池と云  
○ふなり

○此の池は  
○龍王の池と云  
○ふなり

○此の山は  
○富士山と云  
○ふなり

○此の山は  
○富士山と云  
○ふなり

○此の山は  
○富士山と云  
○ふなり

○此の山は  
○富士山と云  
○ふなり

○此の山は  
○富士山と云  
○ふなり

○此の山は  
○富士山と云  
○ふなり

樂の梅

○此の梅は  
○樂の梅と云  
○ふなり

○此の梅は  
○樂の梅と云  
○ふなり

○此の梅は  
○樂の梅と云  
○ふなり

苦の浦

○此の浦は  
○苦の浦と云  
○ふなり

○此の浦は  
○苦の浦と云  
○ふなり

○此の浦は  
○苦の浦と云  
○ふなり

○此の浦は  
○苦の浦と云  
○ふなり

奥の山

○此の山は  
○奥の山と云  
○ふなり

○此の山は  
○奥の山と云  
○ふなり

○此の山は  
○奥の山と云  
○ふなり

○此の山は  
○奥の山と云  
○ふなり

自來の池

○此の池は  
○自來の池と云  
○ふなり

○此の池は  
○自來の池と云  
○ふなり

○此の池は  
○自來の池と云  
○ふなり

○此の池は  
○自來の池と云  
○ふなり

自來谷

○此の谷は  
○自來谷と云  
○ふなり

○此の谷は  
○自來谷と云  
○ふなり

○此の谷は  
○自來谷と云  
○ふなり

自來の池

○此の池は  
○自來の池と云  
○ふなり

○此の池は  
○自來の池と云  
○ふなり

○此の池は  
○自來の池と云  
○ふなり



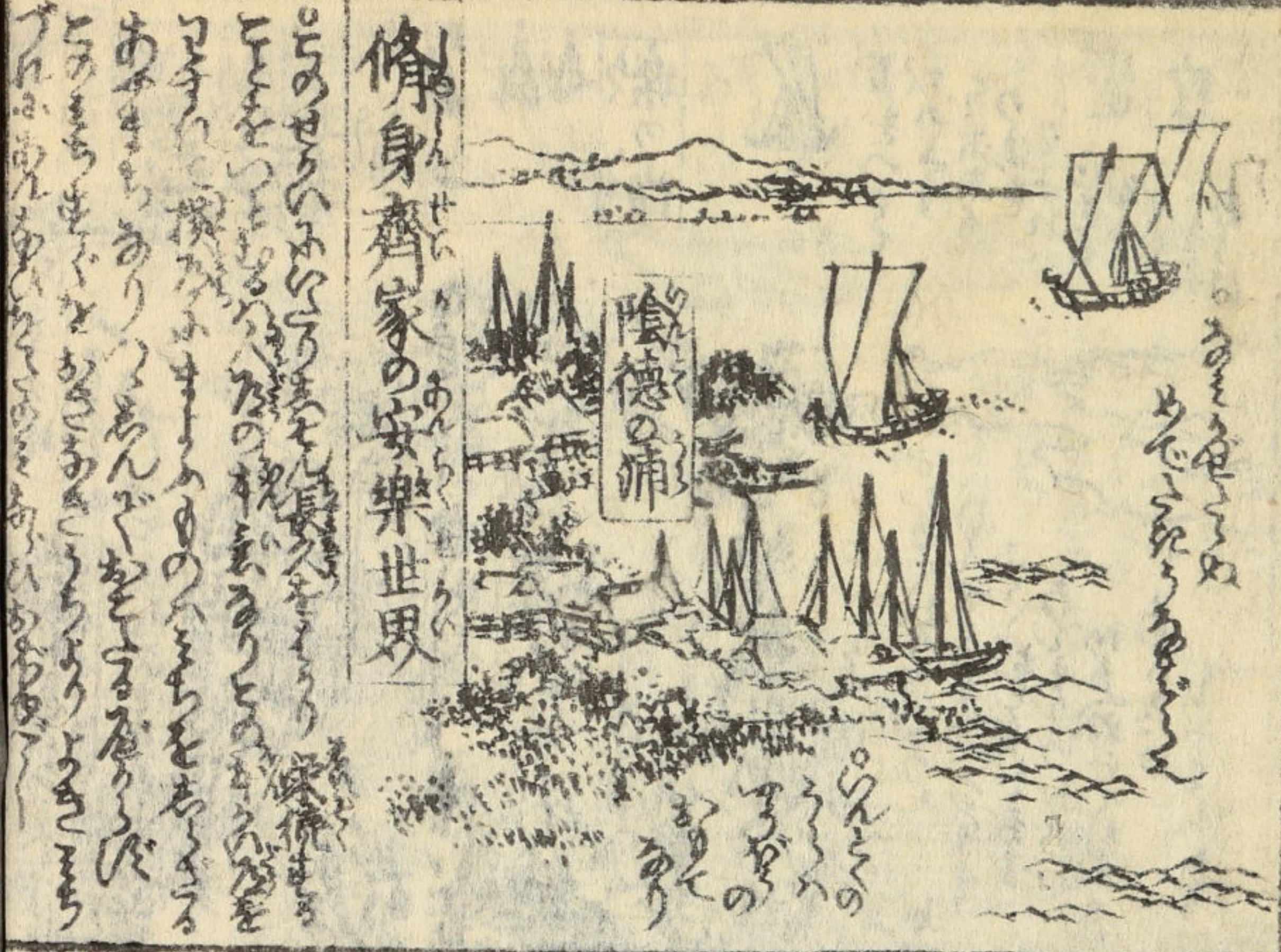


天の道

この道のふかきところを歩くと  
心も静かになり  
あはれみも湧き  
あふんでき  
あふんでき  
あふんでき

めでた死

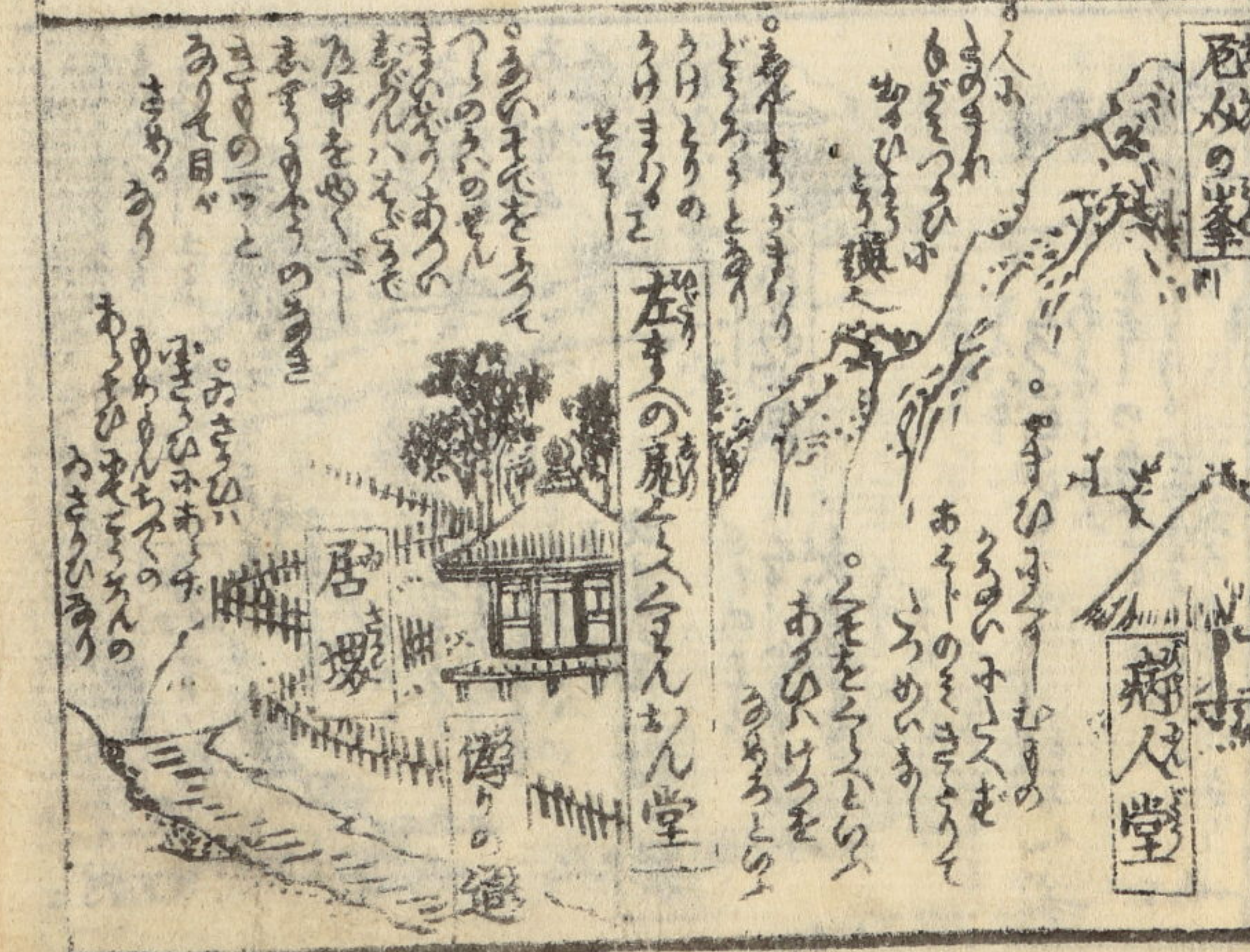
この山のつらさ  
あはれみも湧き  
あふんでき  
あふんでき  
あふんでき  
あふんでき



脩身齊家の安楽世界

陰徳の浦

この世のふかきところを歩くと  
心も静かになり  
あはれみも湧き  
あふんでき  
あふんでき  
あふんでき

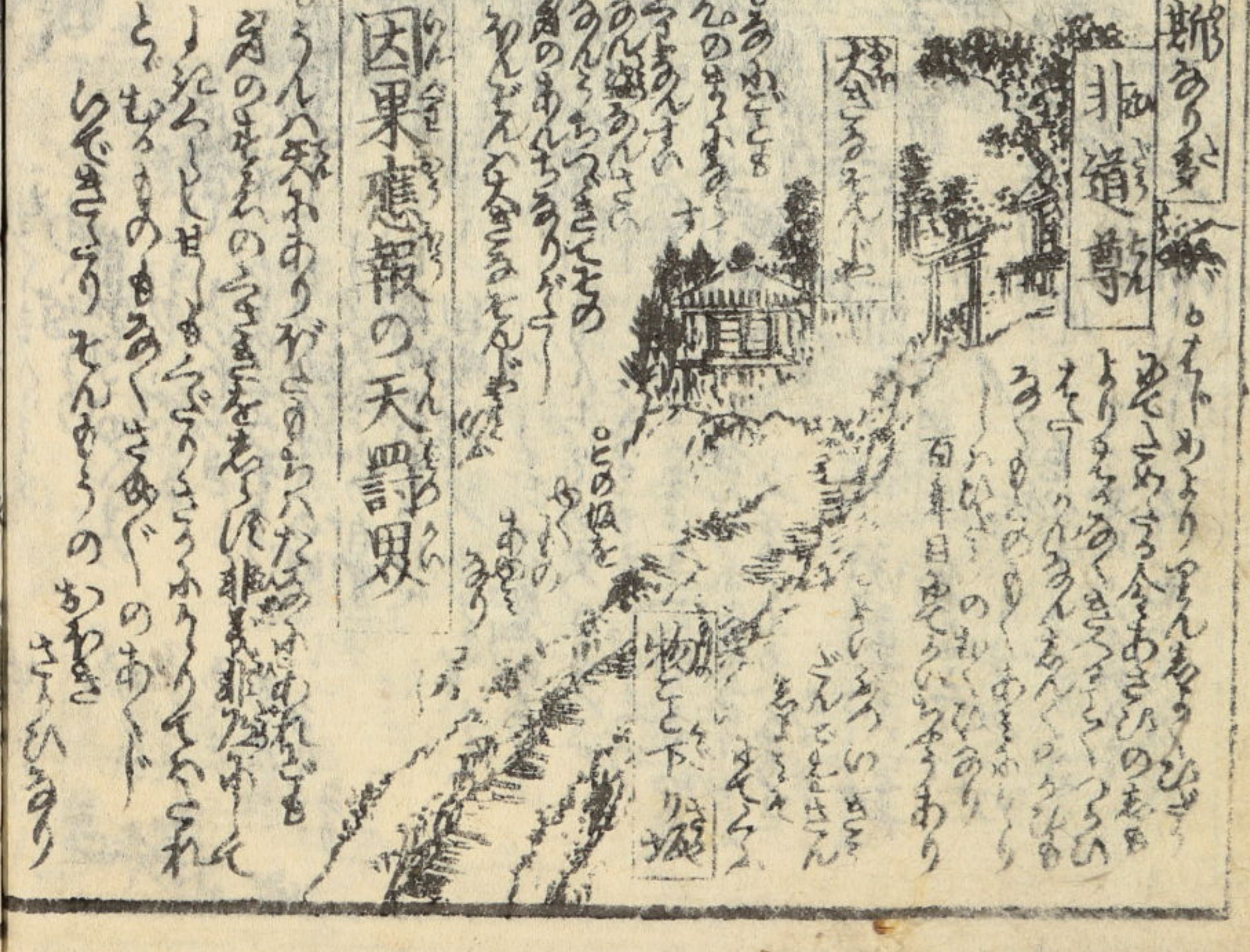


啓の道

静人堂

左の廟と入念ん堂

この道のふかきところを歩くと  
心も静かになり  
あはれみも湧き  
あふんでき  
あふんでき  
あふんでき



因果應報の天罰界

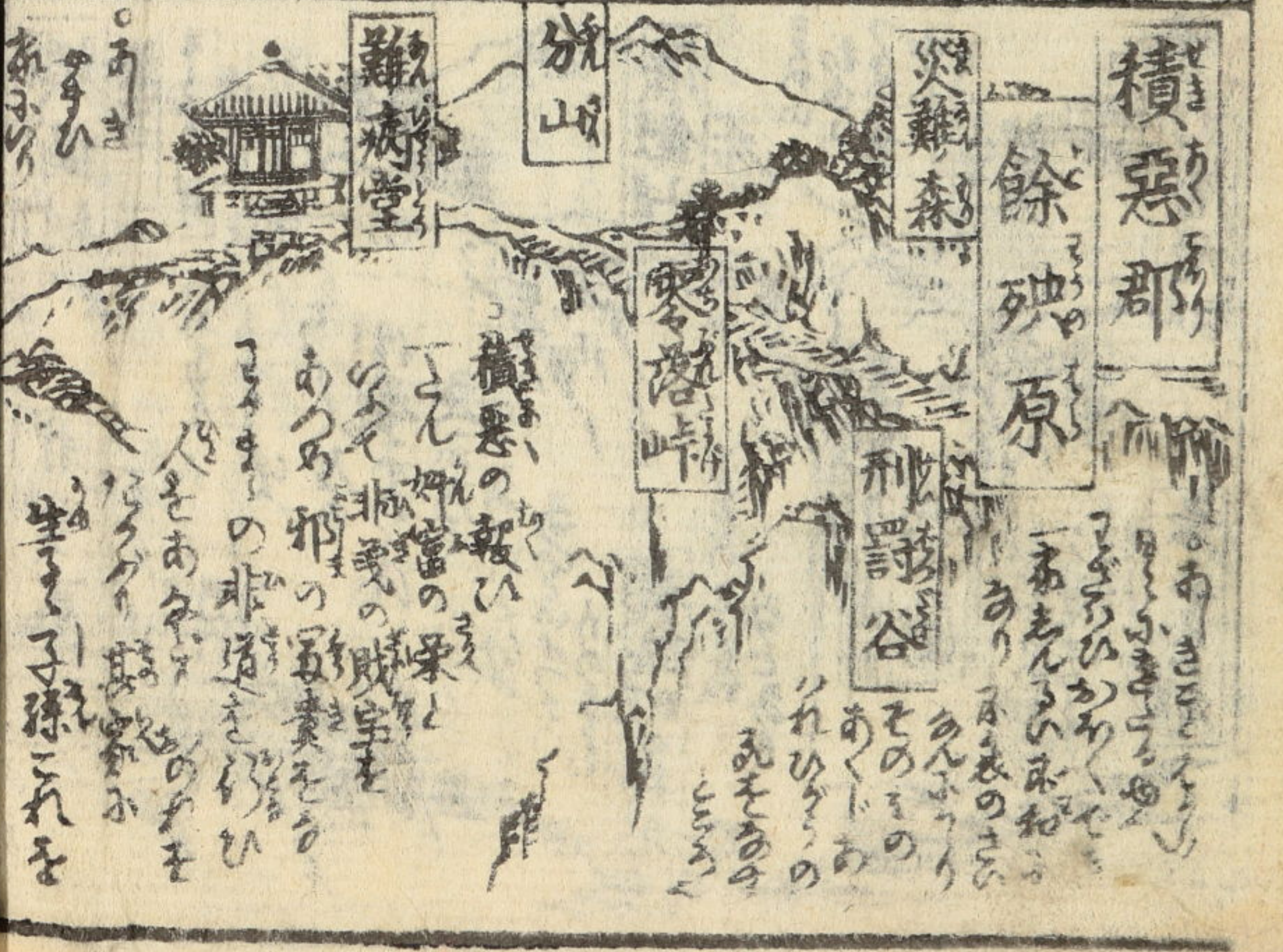
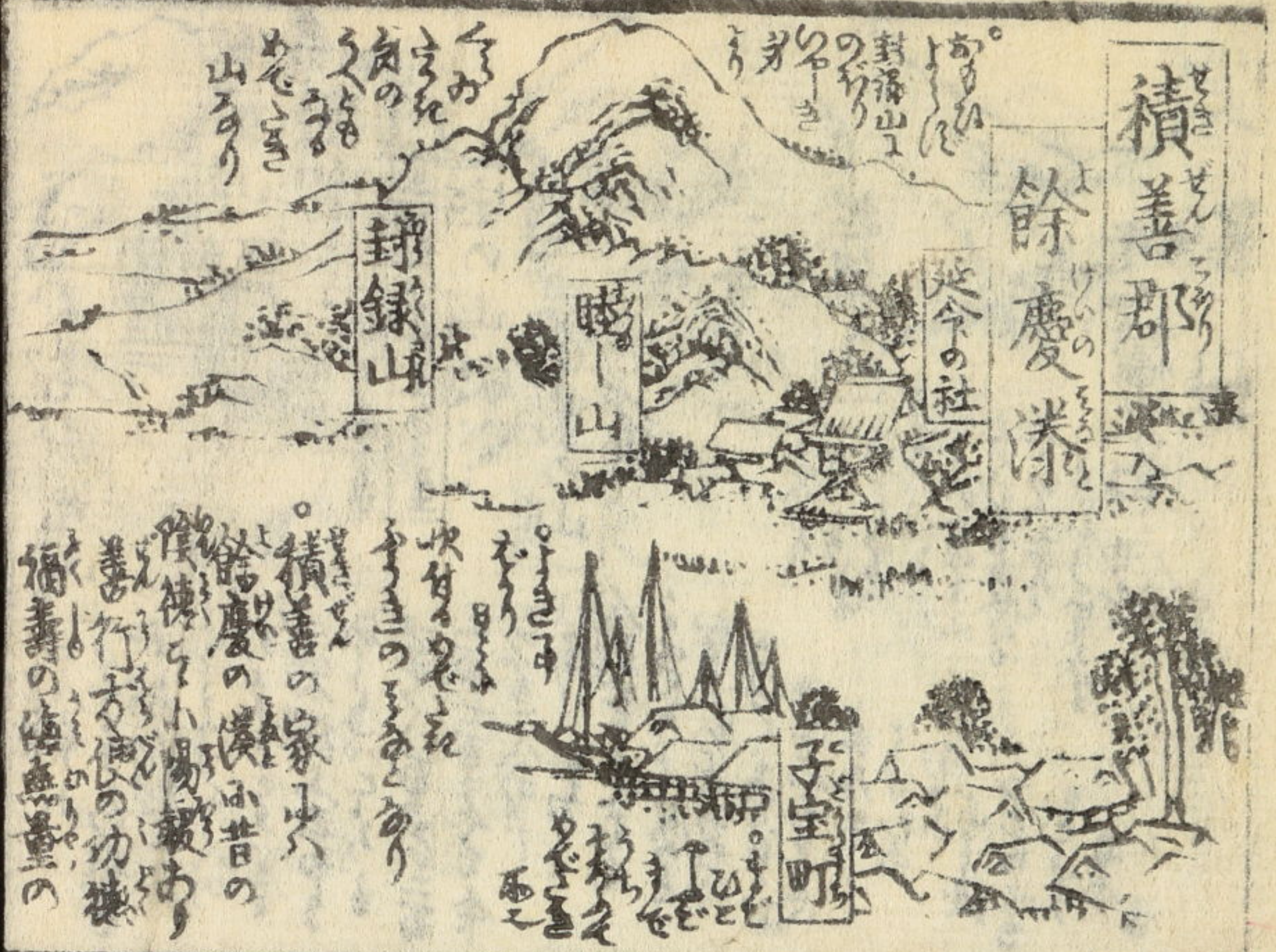
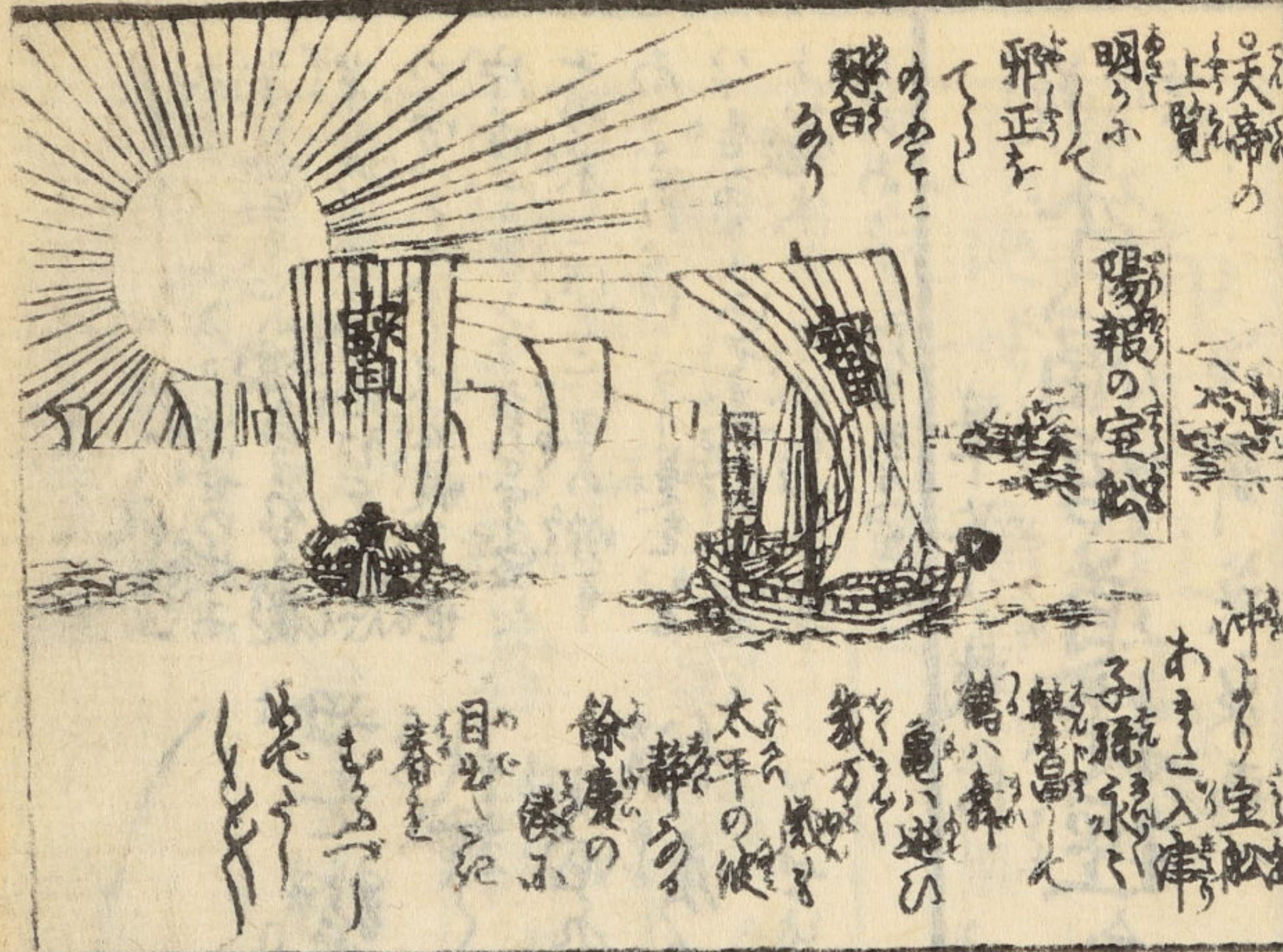
非道駁

この道のふかきところを歩くと  
心も静かになり  
あはれみも湧き  
あふんでき  
あふんでき  
あふんでき















人間七

善惡道中記

全一冊

善惡道中記 華善主人作 人間一冊の善悪を述べて、善悪の因果を説く。善悪の因果を説く。

善惡道中記 漢齋英泉画

同 迷所圖會

全一冊

迷所圖會 善悪道中記の善悪を述べて、善悪の因果を説く。善悪の因果を説く。

同 第三編 國芳画

同 迷所覽

全一冊

迷所覽 迷所圖會の善悪を述べて、善悪の因果を説く。善悪の因果を説く。

同 第四編 貞秀画

同 貧福悟道捷徑

全一冊

貧福悟道捷徑 貧福悟道捷徑の善悪を述べて、善悪の因果を説く。善悪の因果を説く。

同 第五編 西馬作 國輝画

同 善惡色欲二道

全一冊

善惡色欲二道 善惡色欲二道の善悪を述べて、善悪の因果を説く。善悪の因果を説く。

同

同 六編七編

全一冊

六編七編 善悪道中記の善悪を述べて、善悪の因果を説く。善悪の因果を説く。

相撲 改正金剛傳

立川馬馬作全陽齋豐國画冊

改正金剛傳 立川馬馬作全陽齋豐國画冊の善悪を述べて、善悪の因果を説く。善悪の因果を説く。

力競 相撲取組圖會

同作 全一冊

相撲取組圖會 力競の善悪を述べて、善悪の因果を説く。善悪の因果を説く。

實語 教童子教餘師

全一冊

教童子教餘師 實語の善悪を述べて、善悪の因果を説く。善悪の因果を説く。

增補 繪本實語教童子教餘師

全一冊

繪本實語教童子教餘師 繪本實語の善悪を述べて、善悪の因果を説く。善悪の因果を説く。

畧画 立齋 淨埴理圖會

全一冊

淨埴理圖會 畧画の善悪を述べて、善悪の因果を説く。善悪の因果を説く。

嘉永 東都書肆 頂恩堂 木屋又助



